

平成29年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	10	学校名	大淀養護学校
----	----	-----	--------

1. 取組名 幼稚園での「絵本のおはなし会」

2. 活動内容

本校と同町内にある2つの公立幼稚園で、園児に対して「絵本のおはなし会」という絵本の読み聞かせ、劇、手遊び等の活動を実施した。国語科の目標である「相手に応じて伝え方を工夫する力を高める」を達成するために実践的に取り組んだ。また、園児を笑顔にしたり、「ありがとう」と言われたりする経験を通じて、自己有用感を得るとともに、人や社会に貢献する積極的な態度や思いやりの心を育てることを目的とした。

事前の打ち合わせから生徒が行い、各園の担当者に対して活動の趣旨を説明したり、演目を相談したりしながら計画を立てることができた。道具は美術や家庭の授業で制作した。練習では、自分たちで目標や課題を設定し、園児を楽しませたり、分かりやすく伝えたりするための工夫を考えた。休み時間にも自主練習をするなど主体的な活動を展開し、それぞれが熱心に取り組むことができた。

本番は、初めての経験で緊張もあったが、それぞれの目標を意識して、園児と適切に接しながら進行することができた。園児が真剣に話を聞いたり、笑って楽しんだりしている様子を肌で感じることができた。



手遊び



絵本の読み聞かせ



劇（園児も参加）

3. 成果と課題

- 事前の取組から本番まで、生徒たち自身で園からの要望をもとに計画を立て、考えたり相談したりしながら主体的な活動を展開することができた。
- 相手に応じて分かりやすく伝える工夫として、「ゆっくり話す」、「ジェスチャーを交えて話す」、「分かりやすい言葉を使う」、「優しく話す」などを実践することができた。本番では、園児から多くの反応を引き出すことに成功し、伝える工夫の大切さを肌で感じて知ることができた。
- 園児の喜ぶ姿を見たこと、「ありがとう」と言われたこと、園の先生から直接評価を受けたこと等により、人の役に立った実感や、貢献する喜び、行動する自信を得ることができた。
- 生徒たちのがんばりや真摯な態度が、園の関係者（先生や保護者）に伝わったことで、養護学校や障害に対する肯定的な理解や、園（地域）と本校とのつながりを深めることができた。
- 地域に貢献できた活動であったが、地域と「協働」する場面設定が少なかった。

4. 次年度に向けて（担当者の感想を含む）

上記で述べたように、「絵本のおはなし会」は、生徒の主体性が育まれた得難い活動となった。活動後、生徒からは、「園児が喜んでくれて嬉しかった」や、「園長先生からほめられてよかった」という旨の感想を多く受けた。生徒の感じた思いや達成感、地域の人との関わりの中でより深めることができた。担当者としても、普段見られない生徒のがんばりや真摯な態度に、地域と共に活動する意義を深く感じることができた。

「絵本のおはなし会」は、今年度の生徒の実態や取組と地域のニーズが一致した活動であった。次年度以降の「県立学校における地域との協働推進事業」の実施にあたって、その時々の子供の実態に応じた活動や目標を設定することが必要である。